

テックドクターによる現地調査(鹿児島県南九州市川辺町)

令和4年9月18日の台風14号の影響により、国道225号南九州市川辺町清水地区(26K500付近)で国道脇がのり肩崩壊し、片側交互通行となった箇所において、現地状況の詳細な把握及び対応策の検討のため、テックドクターによる現地調査を実施し了解を得た。

出席者:鹿児島大学 酒匂教授

● テックドクターによる調査(令和4年9月20日)



【今回の被災について】

・被災までの24時間雨量が216mm、時間最大雨量が48mm/hの豪雨により、路面排水が集中し、法肩部が浸食され、斜面崩壊に至ったもの。

【対策方法について】

・被災を受けた法面は、下部に大型ブロック積み擁壁を施工し、盛土による復旧を行う。また、被災の要因である路面排水が盛土に侵入しないよう排水構造物(U型側溝)を設置し、舗装及び防護柵を復旧の対策を検討。

⇒テックドクター助言: 国道からの排水処理の検討が必要。排水溝に集水するなどして、斜面側に流入しない形態が望ましい。